

環境への負荷の状況推移

企業活動に伴う環境への影響は小さくありません。その負荷の監視に努め、意識を高めることによって負荷の軽減、自然との共生をめざします。そして、自然の豊かな恩恵を未来へとつなげていきます。



		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
事業所	対象事業所数	事業所	68	69	69	71	72
	延床面積	m ²	147,493	152,300	154,405	157,234	159,103
エネルギー	エネルギー使用量(原油換算)	kl	16,716	16,543	16,767	16,382	15,364
	二酸化炭素排出量	t-CO ₂	39,947	36,032	34,611	33,697	32,017
	温対法に基づくCO ₂ 排出原単位	t-CO ₂ /m ²	0.271	0.237	0.224	0.214	0.201
電気	電気使用量	kwh	62,135,055	61,781,036	62,650,255	61,528,780	58,140,422
水	水使用量	m ³	191,007	173,162	167,083	164,040	160,340
廃棄物	食品廃棄物発生量	t	1,762.6	1,784.1	1,815.5	1,753.3	1,760.9
	食品廃棄物再生利用量	t	676.2	729.0	788.4	753.7	722.9
	食品リサイクル法に基づく発生原単位	kg/百万	24.8	23.4	24.4	22.6	21.7
	食品リサイクル法に基づく食品リサイクル率	%	67.1	70.3	70.4	72.3	72.5

※株式会社フレスタの事業所(センター・店舗等)を対象にしています。※CO₂排出係数は温対法に基づく排出係数を使用しています。

最新数値データはこちらから(毎年8月更新)



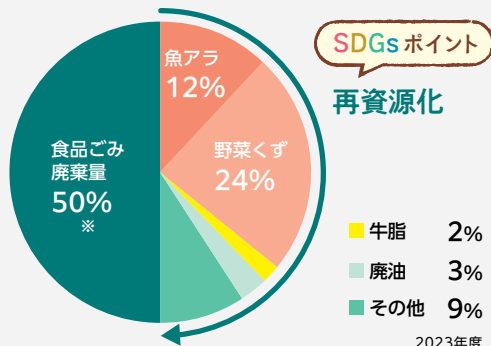
食品廃棄物の再資源化

フレスタ各店舗から発生している食品ごみの中で魚アラ・野菜くず・牛脂・廃油の多くはリサイクルされています。魚アラは養鶏・養魚・飼料等に、野菜くずは堆肥化され肥料に、牛脂・廃油は油脂及び油脂製品に生まれ変わっています。



▲指定専門業者の屋内堆積場 野菜くずを発酵させて有機肥料に

【食品ごみの発生割合】



※未利用品や、一部可食部は
地域コミュニティへ寄付を行っています→P25